

中日本高速道路株式会社が管理する高速道路に係る
高速道路利便増進事業に関する計画

平成21年 2月24日

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構
中日本高速道路株式会社

【目次】

1	高速道路利便増進事業	
1	法第2条第4項第1号に規定する高速道路利便増進事業	1
2	法第2条第4項第2号に規定する高速道路利便増進事業	
(1)	平日夜間割引	2
(2)	平日深夜割引	2
(3)	休日昼間割引	3
(4)	通勤割引(距離制限緩和)	4
(5)	一般国道1号(西湘バイパス)等における深夜割引	6
(6)	一般国道1号(西湘バイパス)等における通勤割引	6
(7)	一般国道1号(新湘南バイパス)における早朝夜間割引	8
(8)	首都圏中央連絡自動車道(八王子ジャンクションから あきる野インターチェンジまで)における割引	8
(9)	首都圏中央連絡自動車道・高速自動車国道連続利用割引	9
(10)	首都圏中央連絡自動車道(西久保ジャンクションから 海老名南インターチェンジまで)における割引	10
(11)	首都圏中央連絡自動車道(海老名北インターチェンジから あきる野インターチェンジまで)における割引	11
(12)	恵那山特別区間・飛騨特別区間割引	12
(13)	一般国道302号(伊勢湾岸道路)割引	12
(14)	一般国道475号(東海環状自動車道)・ 高速自動車国道連続利用割引	13
(15)	高速自動車国道第一東海自動車道の 東京インターチェンジ等における割引	13
(16)	高速自動車国道中央自動車道富士吉田線における短区間割引	13
(17)	高速自動車国道近畿自動車道名古屋関線等における乗継利用割引	14
(18)	一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路))における ETC特別割引	14
2	高速道路貸付料の額の減額	15
3	一般会計に承継される機構債務	15
4	計画期間	16
5	実施体制	17
6	協定の変更	17

本計画は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」という。）及び中日本高速道路株式会社（以下「会社」という。）が、道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律（昭和33年法律第34号。以下「法」という。）第7条第2項に基づき共同して作成し、平成20年10月7日付で国土交通大臣から同意を得た高速道路利便増進事業に関する計画を、法第7条第8項に基づき変更する計画（以下「計画」という。）である。

1 高速道路利便増進事業

1 法第2条第4項第1号に規定する高速道路利便増進事業に関する事項は以下のとおり。

（1）事業の内容

高速道路株式会社法（平成16年法律第99号）第2条第2項に規定する高速道路（以下単に「高速道路」という。）のうち当該高速道路と道路（高速道路を除く。）とを連結する部分で、専らETC通行車（道路整備特別措置法施行規則（昭和31年建設省令第18号）第13条第2項第3号イに規定するETC通行車をいう。）の通行の用に供することを目的として、平成21年4月1日から平成30年3月31日まで間に供用されるものの整備に関する事業（修繕に係る工事のうち機構が会社からその費用に係る債務を引き受けることとなるものを含む）であって、（2）に掲げる目標の達成に資することによって、高速道路の通行者及び利用者の利便の増進が図られると認められるもの（以下「スマートインターチェンジ整備事業」という。）。

（2）整備目標

スマートインターチェンジ整備事業の実施により、高速道路のインターチェンジ間隔の平均を欧米並み（約5km）に改善することを念頭に、当面、人口・産業等が集積する平地部、高速道路が通過するもののインターチェンジのない市町村等における整備に重点を置くこととする。具体的には、平成30年3月31日までに、全国で概ね200箇所を整備し、会社においては別紙-1に記載する高速道路を対象に66箇所を整備する。

（3）事業の手続き

概ね以下の手続きを進める。

都道府県、地方整備局等広域行政を担う関係機関及び会社が連携し、あらかじめ、スマートインターチェンジ整備事業の実施による土地利用や産業政策等について広域的に検討。

高速道路と接続する道路の管理者である地方公共団体、会社及び関係機関からなる地区協議会での個別箇所毎の検討。

地方公共団体が会社及び機構に当該スマートインターチェンジ整備事業に係る実施計画書を提出。

会社及び機構が、毎年度、新規整備箇所にかかる年度計画を取りまとめ、国がこれに同意。

連結許可、協定変更等の所要の手続きを経て事業を実施。

2 法第2条第4項第2号に規定する高速道路利便増進事業に関する事項は以下のとおり。

(1) 平日夜間割引

割引をする自動車

月曜日から金曜日まで(ただし、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に定める休日を除く。)の午後10時から翌午前0時までの間に別紙-2又は別紙-5に掲げる高速道路を通行する全自動車のうち、ETCクレジットカード、ETCパーソナルカード又はETCコーポレートカードを使用して通行料金の納付を行おうとする利用者の自動車(ETCシステムを利用して無線通信により料金所を通行する自動車に限る。ただし、無線通信による通行を意図するも、事情により無線通信による通行が不可能となった場合には、無線通信による通行の有無にかかわらず、無線通信により通行したものとみなす。以下「ETC車」という。)

なお、上記にいう「ETCシステム」は有料道路自動料金収受システムを使用する料金徴収事務の取扱いに関する省令(平成11年建設省令第38号)第1条に規定する有料道路自動料金収受システムをいう。

割引率

30%

適用する期間

平成20年10月14日から平成30年3月31日まで。(ただし、別紙-5のうちC、D又はEに掲げる高速道路(一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路)))を除く。)にあっては平成21年3月30日から平成30年3月31日までとし、一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路))にあっては平成22年4月1日から平成30年3月31日までとする。)

(2) 平日深夜割引

割引をする自動車

月曜日から金曜日まで(ただし、国民の祝日に関する法律第3条に定める休日を除く。)の午前0時から午前4時までの間に別紙-2又は別紙-5に掲げる高速道路を通行するETC車。

割引率

50%

適用する期間

平成20年10月14日から平成30年3月31日まで。(ただし、別紙-5のうちC、D又はEに掲げる高速道路(一般国道158号(中部縦貫自動車道(安

房峠道路))を除く。)にあつては平成21年3月30日から平成30年3月31日までとし、一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路))にあつては平成22年4月1日から平成30年3月31日までとする。)

(3) 休日昼間割引

割引をする自動車

(イ) 対距離制を適用する区間等

対距離制を適用する区間(別紙-2に掲げる高速道路のうち別紙-3に掲げる均一制を適用する区間を除く区間。)又は別紙-5のうちAに掲げる高速道路のうち、100キロメートル以内の区間を通行し(別紙-4に掲げる大都市近郊区間のみを通行を除く。)かつ、土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律第3条に定める休日の午前9時から午後5時までの間に料金所を通行するETC車のうち軽自動車等及び普通車。

ただし、上記の自動車が本割引(東日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社が実施する休日昼間割引を含む。)の適用を2回受けた後、同時間帯に料金所を再度通行する場合を除く。

なお、下表に掲げる場合についての本割引の適用回数は1回とし、二以上の場合に該当し得るときは合わせて1回とする。

連続して通行する甲インターチェンジと乙インターチェンジの間に、別紙-3に掲げる均一制を適用する区間、一般国道1号(西湘バイパス)、一般国道138号(東富士五湖道路)、一般国道271号(小田原厚木道路)又は一般国道139号(西富士道路)を含む場合。
高速自動車国道第一東海自動車道と一般国道16号(八王子バイパス)を、高速自動車国道第一東海自動車道の横浜町田インターチェンジ又は厚木インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道中央自動車道富士吉田線と一般国道16号(八王子バイパス)を、高速自動車国道中央自動車道富士吉田線の八王子インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道第一東海自動車道と一般国道138号(東富士五湖道路)を、高速自動車国道第一東海自動車道の御殿場インターチェンジと一般国道138号(東富士五湖道路)の須走インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道東海北陸自動車道と一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路))を、高速自動車国道東海北陸自動車道の飛騨清見インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道中央自動車道長野線と一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路))を、高速自動車国道中央自動車道長野線の松本インターチェンジを経由し連続して通行する場合。

(ロ) 均一制を適用する区間

別紙 - 3のうちAに掲げる均一制を適用する区間又は別紙 - 5のうちDに掲げる高速道路を通行し、かつ、土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律第3条に定める休日の午前9時から午後5時までの間に料金所を通行するETC車のうち軽自動車等及び普通車。

ただし、上記の自動車が本割引（東日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社が適用する休日昼間割引を含む。）の適用を2回受けた後、同時間帯に料金所を再度通行するときを除く。

なお、下表に掲げる場合についての本割引の適用回数は1回とし、二以上の場合に該当し得るときは合わせて1回とする。

連続して通行する甲インターチェンジと乙インターチェンジの間に、一般国道1号（西湘バイパス）、一般国道138号（東富士五湖道路）又は一般国道271号（小田原厚木道路）を含む場合。
一般国道1号（西湘バイパス）と一般国道1号（箱根新道）を、一般国道1号（西湘バイパス）の箱根口インターチェンジを經由し連続して通行する場合。
一般国道271号（小田原厚木道路）と一般国道16号（八王子バイパス）を、一般国道271号（小田原厚木道路）の厚木西インターチェンジ、伊勢原インターチェンジ又は平塚東インターチェンジを經由し連続して通行する場合。

割引率

50%。

ただし、別紙 - 4に掲げる大都市近郊区間を含む通行については、同区間の通行に係る料金を除いた料金に対して割引を適用する。

適用する期間

平成20年10月14日から平成30年3月31日まで。（ただし、別紙 - 5のうちDに掲げる高速道路（一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））を除く。）にあつては平成21年3月28日から平成30年3月31日までとし、一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））にあつては平成22年4月1日から平成30年3月31日までとする。）

(4) 通勤割引（距離制限緩和）

割引をする自動車

(イ) 対距離制を適用する区間等

対距離制を適用する区間（別紙 - 2に掲げる高速道路のうち別紙 - 3に掲げる均一制を適用する区間を除く区間。）又は別紙 - 5のうちAに掲げる高速道路を通行し（別紙 - 4に掲げる大都市近郊区間のみを通行を除く。）かつ、午前6時から午前9時までの間又は午後5時から午後8時までの間に料金所を通行するETC車。

ただし、上記の自動車が本割引（東日本高速道路株式会社又は西日本高速道

路株式会社が実施する通勤割引（距離制限緩和）を含む。）の適用を受けた後、当該割引の適用を受けた一の時間帯（午前6時から午前9時までの間又は午後5時から午後8時までの間をいう。）に料金所を再度通行する場合を除く。

なお、下表に掲げる場合についての本割引の適用回数は1回とし、二以上の場合に該当し得るときは合わせて1回とする。

連続して通行する甲インターチェンジと乙インターチェンジの間に、別紙 - 3 に掲げる均一制を適用する区間、一般国道1号（西湘バイパス）、一般国道138号（東富士五湖道路）、一般国道271号（小田原厚木道路）又は一般国道139号（西富士道路）を含む場合。
高速自動車国道第一東海自動車道と一般国道16号（八王子バイパス）を、高速自動車国道第一東海自動車道の横浜町田インターチェンジ又は厚木インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道中央自動車道富士吉田線と一般国道16号（八王子バイパス）を、高速自動車国道中央自動車道富士吉田線の八王子インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道第一東海自動車道と一般国道138号（東富士五湖道路）を、高速自動車国道第一東海自動車道の御殿場インターチェンジと一般国道138号（東富士五湖道路）の須走インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道東海北陸自動車道と一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））を、高速自動車国道東海北陸自動車道の飛騨清見インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道中央自動車道長野線と一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））を、高速自動車国道中央自動車道長野線の松本インターチェンジを経由し連続して通行する場合。

（ロ）均一制を適用する区間等

別紙 - 3 のうちAに掲げる均一制を適用する区間又は別紙 - 5 のうちDに掲げる高速道路を通行し、かつ、午前6時から午前9時までの間又は午後5時から午後8時までの間に料金所を通行するETC車。

ただし、上記の自動車の本割引（東日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社が適用する通勤割引（距離制限緩和）を含む。）の適用を受けた後、当該割引の適用を受けた一の時間帯（午前6時から午前9時までの間又は午後5時から午後8時までの間をいう。）に料金所を再度通行する場合を除く。

なお、下表に掲げる場合についての本割引の適用回数は1回とし、二以上の場合に該当し得るときは合わせて1回とする。

連続して通行する甲インターチェンジと乙インターチェンジの間に、一般国道1号(西湘バイパス)、一般国道138号(東富士五湖道路)又は一般国道271号(小田原厚木道路)を含む場合。
--

一般国道1号(西湘バイパス)と一般国道1号(箱根新道)を、一般国道1号(西湘バイパス)の箱根口インターチェンジを經由し連続して通行する場合。
--

一般国道271号(小田原厚木道路)と一般国道16号(八王子バイパス)を、一般国道271号(小田原厚木道路)の厚木西インターチェンジ、伊勢原インターチェンジ又は平塚東インターチェンジを經由し連続して通行する場合。

割引率

50%。

ただし、当該通行が100キロメートル(別紙-4に掲げる区間を通行する場合には当該区間の利用距離を除く。)を超える場合は、100キロメートルの通行に係る料金に対して割引を適用する。

適用する期間

平成21年7月8日から平成24年4月12日まで。(ただし、一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路))にあっては平成22年4月1日から平成24年4月12日までとする。)

(5) 一般国道1号(西湘バイパス)等における深夜割引

割引をする自動車

午前0時から午前4時までの間に別紙-5のうちD又はEに掲げる高速道路を通行するETC車。

割引率

30%

適用する期間

平成21年3月28日から平成30年3月31日まで。(ただし、一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路))にあっては平成22年4月1日から平成30年3月31日までとする。)

(6) 一般国道1号(西湘バイパス)等における通勤割引

割引をする自動車

別紙-5のうちDに掲げる高速道路を通行し、かつ、午前6時から午前9時までの間又は午後5時から午後8時までの間に料金所を通行するETC車。

ただし、上記の自動車が本割引(東日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社が適用する通勤割引を含む。)の適用を受けた後、当該割引の適用を受け

た一の時間帯（午前6時から午前9時までの間又は午後5時から午後8時までの間をいう。）に料金所を再度通行する場合を除く。

なお、下表に掲げる場合についての本割引の適用回数は1回とし、二以上の場合に該当し得るときは合わせて1回とする。

連続して通行する甲インターチェンジと乙インターチェンジの間に、別紙 - 2 に掲げる高速道路の区間、一般国道1号（西湘バイパス）、一般国道138号（東富士五湖道路）、一般国道271号（小田原厚木道路）又は一般国道139号（西富士道路）を含む場合。
高速自動車国道第一東海自動車道と一般国道16号（八王子バイパス）を、高速自動車国道第一東海自動車道の厚木インターチェンジ又は横浜町田インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道中央自動車道富士吉田線と一般国道16号（八王子バイパス）を、高速自動車国道中央自動車道富士吉田線の八王子インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道第一東海自動車道と一般国道138号（東富士五湖道路）を、高速自動車国道第一東海自動車道の御殿場インターチェンジと一般国道138号（東富士五湖道路）の須走インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道東海北陸自動車道と一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））を、高速自動車国道東海北陸自動車道の飛騨清見インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
高速自動車国道中央自動車道長野線と一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））を、高速自動車国道中央自動車道長野線の松本インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
一般国道1号（西湘バイパス）と一般国道1号（箱根新道）を、一般国道1号（西湘バイパス）の箱根口インターチェンジを経由し連続して通行する場合。
一般国道271号（小田原厚木道路）と一般国道16号（八王子バイパス）を、一般国道271号（小田原厚木道路）の厚木西インターチェンジ、伊勢原インターチェンジ又は平塚東インターチェンジを経由し連続して通行する場合。

割引率

50%

適用する期間

平成21年3月28日から平成30年3月31日まで。（ただし、一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））にあっては平成22年4月1日から平成30年3月31日までとする。）

(7) 一般国道1号(新湘南バイパス)における早朝夜間割引

割引をする自動車

一般国道1号(新湘南バイパス)を通行し、かつ、午後10時から翌午前6時までの間に料金所を通行するETC車。

割引率

50%

適用する期間

平成21年3月28日から平成30年3月31日まで。

(8) 首都圏中央連絡自動車道(八王子ジャンクションからあきる野インターチェンジまで)における割引

割引をする自動車

に定めるAインターチェンジとFインターチェンジ若しくはGインターチェンジ、BインターチェンジとFインターチェンジ、CインターチェンジとFインターチェンジ、DインターチェンジとFインターチェンジ若しくはGインターチェンジ又はEインターチェンジとFインターチェンジ若しくはGインターチェンジの各インターチェンジ相互間を通行するETC車。

割引額

に定める各インターチェンジ相互間の割引額は次表のとおり。

	割引額(単位:円)				
	軽自動車等	普通車	中型車	大型車	特大車
AインターチェンジとFインターチェンジ若しくはGインターチェンジ又はBインターチェンジとFインターチェンジの各インターチェンジ相互間	400	500	600	800	1,400
CインターチェンジとFインターチェンジの各インターチェンジ相互間	300	300	300	300	300
DインターチェンジとFインターチェンジのインターチェンジ相互間	300	300	300	300	400
DインターチェンジとGインターチェンジの各インターチェンジ相互間	100	150	150	200	400

E インターチェンジと F インターチェンジの インターチェンジ相互 間	300	300	500	650	1,150
E インターチェンジと G インターチェンジの 各インターチェンジ相 互間	300	400	500	650	1,150

適用する期間

平成21年4月1日から平成21年5月12日まで。

対象インターチェンジ

A インターチェンジ	東日本高速道路株式会社が管理する高速自動車国道関越自動車道新潟線の練馬インターチェンジから川越インターチェンジまでの間の各インターチェンジ並びに一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の坂戸インターチェンジ及び川島インターチェンジ。
B インターチェンジ	東日本高速道路株式会社が管理する高速自動車国道関越自動車道新潟線の鶴ヶ島インターチェンジから前橋インターチェンジまでの間の各インターチェンジ、高速自動車国道北関東自動車道の前橋南インターチェンジから伊勢崎インターチェンジまでの間の各インターチェンジ及び高速自動車国道関越自動車道上越線の藤岡インターチェンジ。
C インターチェンジ	一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の八王子西インターチェンジから入間インターチェンジまでの間の各インターチェンジ。
D インターチェンジ	東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の狭山日高インターチェンジ。
E インターチェンジ	東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の圏央鶴ヶ島インターチェンジ。
F インターチェンジ	高速自動車国道中央自動車道富士吉田線の八王子インターチェンジ。
G インターチェンジ	高速自動車国道中央自動車道富士吉田線の相模湖インターチェンジから河口湖インターチェンジまでの間の各インターチェンジ、高速自動車国道中央自動車道西宮線の勝沼インターチェンジから甲府昭和インターチェンジまでの間の各インターチェンジ。

(9) 首都圏中央連絡自動車道・高速自動車国道連続利用割引

割引をする自動車

に定めるAインターチェンジとBインターチェンジ又はCインターチェンジ相互間を通行するETC車。

割引額

に定めるAインターチェンジとBインターチェンジ相互間については150円、AインターチェンジとCインターチェンジ相互間については300円。

適用する期間

平成21年5月13日から平成30年3月31日まで。

対象インターチェンジ

A インターチェンジ	一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(茅ヶ崎市から海老名市門沢橋まで)、一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(海老名市中新田からあきる野市まで)又は東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(あきる野市から久喜市まで)の各インターチェンジ。
B インターチェンジ	高速自動車国道第一東海自動車道の東京インターチェンジから厚木インターチェンジまでの間の各インターチェンジ、高速自動車国道第二東海自動車道横浜名古屋線の厚木南インターチェンジ、高速自動車国道中央自動車道富士吉田線の元八王子インターチェンジから相模湖インターチェンジまでの間の各インターチェンジ、東日本高速道路株式会社が管理する高速自動車国道東北縦貫自動車道弘前線の川口インターチェンジから久喜インターチェンジまでの間の各インターチェンジ又は東日本高速道路株式会社が管理する高速自動車国道関越自動車道新潟線の練馬インターチェンジから鶴ヶ島インターチェンジまでの間の各インターチェンジ。
C インターチェンジ	高速自動車国道中央自動車道富士吉田線の八王子インターチェンジ。

(10) 首都圏中央連絡自動車道(西久保ジャンクションから海老名南インターチェンジまで)における割引

割引をする自動車

ETC車。

割引額

割引額は、次表のとおりとする。

区間	軽自動車等	普通車	中型車	大型車	特大車
西久保ジャンクションと海老名南インターチェンジ相互間	50	100	100	150	250
寒川南インターチェンジと海老名南インターチェンジ相互間	-	-	-	-	50

適用する期間

平成24年4月1日から平成30年3月31日まで。

(1 1) 首都圏中央連絡自動車道（海老名北インターチェンジからあきる野インターチェンジまで）における割引

割引をする自動車

E T C車。

割引率等

2以上の高速自動車国道と接続する区間として、 に定める各区間の割引額については次表のとおりとする。

区間	割引額（単位：円）				
	軽自動車等	普通車	中型車	大型車	特大車
A	250	350	400	550	950
B	600	750	900	1,250	1,950
C	700	800	900	1,400	1,950
D	400	500	600	800	1,400
E	600	750	850	1,250	1,850

(口) 料金調整

ただし、上表に定めるAからEまでの各区間の割引適用後の料金が、 の表
中のa若しくはcに掲げるインターチェンジ又はa若しくはcに掲げる区間の
いずれかのインターチェンジで本割引適用時に利用したインターチェンジとb
に掲げる区間のいずれかのインターチェンジ間の料金を下回る場合は、後者の
料金を前者の料金と同額にする。

適用する期間

平成21年5月13日から平成30年3月31日まで。

対象区間

下表のaに掲げるインターチェンジ又はaに掲げる区間のいずれかのインター
チェンジとcに掲げるインターチェンジ又はcに掲げる区間のいずれかのインタ
ーチェンジ相互間。

	a	b	c
A	一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）（海老名市中新田からあきる野市まで）の海老名北インターチェンジ	一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）（海老名市中新田からあきる野市まで）の圏央厚木インターチェンジから八王子南インターチェンジまでの区間	一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）（海老名市中新田からあきる野市まで）の八王子ジャンクションから東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）の圏央鶴ヶ島インターチェンジまでの区間
B	一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）（海老名市中新田からあきる野市まで）の海老名北インターチェンジ	一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）（海老名市中新田からあきる野市まで）の圏央厚木インターチェンジから東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）の圏央鶴ヶ島インターチェンジまでの区間	東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）の鶴ヶ島ジャンクションから菖蒲白岡インターチェンジまでの区間

C	一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(海老名市中新田からあきる野市まで)の海老名北インターチェンジ	一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(海老名市中新田からあきる野市まで)の圏央厚木インターチェンジから東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の菖蒲白岡インターチェンジまでの区間	東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の久喜白岡ジャンクション
D	一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(海老名市中新田からあきる野市まで)の圏央厚木インターチェンジから八王子ジャンクションまでの区間	一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(海老名市中新田からあきる野市まで)の八王子西インターチェンジから東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の圏央鶴ヶ島インターチェンジまでの区間	東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の鶴ヶ島ジャンクションから菖蒲白岡インターチェンジまでの区間
E	一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(海老名市中新田からあきる野市まで)の圏央厚木インターチェンジから八王子ジャンクションまでの区間	一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)(海老名市中新田からあきる野市まで)の八王子西インターチェンジから東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の菖蒲白岡インターチェンジまでの区間	東日本高速道路株式会社が管理する一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道)の久喜白岡ジャンクション

(12) 恵那山特別区間・飛騨特別区間割引

割引をする自動車

ETC車。

割引率

高速自動車国道中央自動車道西宮線の園原インターチェンジから中津川インターチェンジまでの区間又は高速自動車国道東海北陸自動車道の飛騨清見インターチェンジから白川郷インターチェンジまでの区間の利用距離に対して課する1キロメートル当たりの料金の額について、30%の割引を行う。

適用する期間

平成21年5月13日から平成30年3月31日までとする。

(13) 一般国道302号(伊勢湾岸道路)割引

割引をする自動車

ETC車。

割引率

30%。

ただし、一般国道302号(伊勢湾岸道路)の料金に適用する。

適用する期間

平成21年5月13日から平成30年3月31日まで。

(1 4) 一般国道 4 7 5 号 (東海環状自動車道) ・ 高速自動車国道連続利用割引
割引をする自動車

に定める A インターチェンジと B インターチェンジ相互間を通行する E T C 車。

割引額

1 5 0 円

適用する期間

平成 2 1 年 5 月 1 3 日から平成 3 0 年 3 月 3 1 日まで。

対象インターチェンジ

A インターチェンジ	一般国道 4 7 5 号 (東海環状自動車道) の各インターチェンジ。
B インターチェンジ	高速自動車国道第一東海自動車道の豊田インターチェンジから小牧インターチェンジまでの間の各インターチェンジ、高速自動車国道東海北陸自動車道の一宮西インターチェンジから美濃インターチェンジまでの間の各インターチェンジ、高速自動車国道第二東海自動車道横浜名古屋線の豊田東インターチェンジから名古屋南インターチェンジまでの間の各インターチェンジ並びに高速自動車国道中央自動車道西宮線の土岐インターチェンジから小牧ジャンクションまでの間の各インターチェンジ及び一宮インターチェンジ。

(1 5) 高速自動車国道第一東海自動車道の東京インターチェンジ等における割引
割引をする自動車

午後 1 1 時から翌午前 0 時までの間に高速自動車国道第一東海自動車道の東京インターチェンジ又は高速自動車国道近畿自動車道名古屋関線の亀山インターチェンジを流出する E T C 車。

割引率

翌日の午前 0 時から 4 時までの間に当該インターチェンジを流出した場合に適用される割引率と同じ率。

適用する期間

平成 2 1 年 4 月 1 日から平成 3 0 年 3 月 3 1 日まで。

(1 6) 高速自動車国道中央自動車道富士吉田線における短区間割引
割引をする自動車

別紙 - 3 のうち B に掲げる均一制を適用する区間のうち、高井戸インターチェンジから調布インターチェンジまでの区間、高井戸インターチェンジから稲城インターチェンジまでの区間、調布インターチェンジから稲城インターチェンジまでの区間、調布インターチェンジから国立府中インターチェンジまでの区間、国立府中インターチェンジから八王子インターチェンジまでの区間又は高井戸インターチェンジから国立府中インターチェンジまでの区間を通行する E T C 車。

割引額

別紙 - 3のうちBに掲げる均一制を適用する区間の料金の額から、次表に掲げる額（単位：円）を差し引くものとする。

	軽自動車等	普通車	中型車	大型車	特大車
高井戸～調布	150	200	250	450	850
高井戸～稲城	100	150	150	350	650
高井戸～国立府中	-	-	-	-	50
調布～稲城	300	350	450	700	1,300
調布～国立府中	100	150	200	350	700
国立府中～八王子	100	150	200	400	750

適用する期間

平成23年4月1日から平成30年3月31日まで。

(17) 高速自動車国道近畿自動車道名古屋関線等における乗継利用割引

割引をする自動車

高速自動車国道第一東海自動車道、高速自動車国道近畿自動車道名古屋関線のうち名古屋インターチェンジから高針インターチェンジまでの区間及び名古屋高速道路名古屋市道高速四谷高針線の3路線を連続して通行するETC車。

割引率

50%。

ただし、高速自動車国道近畿自動車道名古屋関線の料金に適用する。

適用する期間

平成23年4月1日から平成30年3月31日まで。

(18) 一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））におけるETC特別割引

割引をする自動車

一般国道158号（中部縦貫自動車道（安房峠道路））を通行するETC車。

割引率

30%

適用する期間

平成22年4月1日から平成30年3月31日まで。

2 高速道路貸付料の額の減額

法第7条第2項第2号に規定する高速道路利便増進事業のために必要となる、機構による高速道路貸付料の額の減額については、以下のとおり。

【百万円】

東日本高速道路株式会社、 中日本高速道路株式会社、 及び西日本高速道路株式会社 に係る高速道路貸付料の額の減額	うち中日本高速道路株式会社に係る額
1,985,218	674,772

3 一般会計に承継される機構債務

法第7条第2項第3号に規定する高速道路貸付料の額の減額措置による機構の負担の軽減を図るため、一般会計に承継される機構債務は以下のとおり。

承継される 機構債務	承継額（百万円）		利率 （％）	償還期限	利息支払期
	元本	利息			
政府保証に号 第166回道路債券	97,771	96,954	817	2.10	平成21年3月25日 4月30日 10月30日
政府保証に号 第167回道路債券	288,857	280,700	8,157	0.70	平成25年4月24日 2月28日 8月28日
政府保証に号 第168回道路債券	83,389	81,324	2,065	0.60	平成25年5月23日 2月28日 8月28日
政府保証に号 第177回道路債券	163,111	150,900	12,211	1.50	平成26年4月22日 5月30日 11月30日
政府保証に号 第178回道路債券	200,413	183,101	17,312	1.50	平成27年3月20日 5月30日 11月30日
財政融資資金貸付金借入金 11001	54,328	53,800	528	2.00	平成21年4月27日 4月30日 10月30日
財政融資資金貸付金借入金 11003	42,849	42,400	449	1.60	平成21年6月28日 4月30日 10月30日

財政融資資金貸付金借入金 11009	32,797	32,027	770	2.10	平成 21 年 12 月 22 日	4 月 30 日 10 月 30 日
財政融資資金貸付金借入金 11010	40,179	39,161	1,018	2.10	平成 22 年 1 月 25 日	4 月 30 日 10 月 30 日
財政融資資金貸付金借入金 11013	128,641	125,100	3,541	2.10	平成 22 年 4 月 26 日	6 月 20 日 12 月 20 日
財政融資資金貸付金借入金 12003	89,824	87,300	2,524	1.90	平成 22 年 6 月 28 日	6 月 20 日 12 月 20 日
財政融資資金貸付金借入金 12004	18,146	17,613	533	1.90	平成 22 年 7 月 23 日	6 月 20 日 12 月 20 日
財政融資資金貸付金借入金 13001	261,468	254,335	7,133	1.20	平成 23 年 4 月 22 日	6 月 20 日 12 月 20 日
財政融資資金貸付金借入金 14001	199,542	190,000	9,542	1.50	平成 24 年 4 月 25 日	6 月 20 日 12 月 20 日
財政融資資金貸付金借入金 14002	71,686	68,180	3,506	1.50	平成 24 年 5 月 24 日	6 月 20 日 12 月 20 日

(注 1) 承継額に含まれる利息は、承継後に支払うこととされている利息の総額を計上。

(注 2) 上表の額は単位未満を端数処理している。

(注 3) 高速道路貸付料の額を減ずる時期と承継される機構債務の償還期限との差異により生ずる支払利息の軽減額(現行の収支明細における前提条件に基づき算定)を考慮している。

4 計画期間

平成 20 年 10 月 14 日から料金徴収期間満了の日まで。ただし、12 にあつては平成 30 年 3 月 31 日までとする。

5 実施体制

- (1) 機構及び会社は、本計画に基づく高速道路利便増進事業の実施にあたって、高速道路を利用されるお客様などに対し、関係機関と協力の上、本計画をホームページに掲載するなどにより十分周知を図るよう取り組む。
- (2) 会社は、本計画に基づく料金割引の実施に必要な料金システムの変更等を速やかに行う。
- (3) 機構及び会社は、本計画に基づく高速道路利便増進事業の開始後、継続的に交通量、金利等の社会経済情勢、減収額、お客様の利便性等を把握し、これらの結果を国土交通省へ報告するとともに、スマートインターチェンジ整備事業の状況等を踏まえて、必要に応じて本計画の変更を行う。

6 協定の変更

本計画に対する国土交通大臣の同意を得た後、速やかに、機構及び会社は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法（平成16年法律第100号）第13条及び高速道路株式会社法（平成16年法律第99号）第6条に基づき、協定の変更を行う。

別紙 - 1

- (1) 高速自動車国道中央自動車道富士吉田線
- (2) 高速自動車国道中央自動車道西宮線 (大月市から東近江市まで (八日市インターチェンジを含む。))
- (3) 高速自動車国道中央自動車道長野線 (岡谷市から安曇野市まで (豊科インターチェンジを含む。))
- (4) 高速自動車国道第一東海自動車道
- (5) 高速自動車国道東海北陸自動車道
- (6) 高速自動車国道第二東海自動車道横浜名古屋線
- (7) 高速自動車国道中部横断自動車道
- (8) 高速自動車国道北陸自動車道 (富山県下新川郡朝日町から米原市まで (朝日インターチェンジを含む。))
- (9) 高速自動車国道近畿自動車道伊勢線
- (10) 高速自動車国道近畿自動車道名古屋関線
- (11) 高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線 (愛知県海部郡飛島村から甲賀市まで (甲賀土山インターチェンジを含まない。))
- (12) 高速自動車国道近畿自動車道尾鷲勢和線
- (13) 高速自動車国道近畿自動車道敦賀線 (小浜市から敦賀市まで ((仮称) 小浜インターチェンジを含まない。))
- (14) 一般国道 1 号 (新湘南バイパス)
- (15) 一般国道 1 号 (西湘バイパス)
- (16) 一般国道 138 号 (東富士五湖道路)
- (17) 一般国道 271 号 (小田原厚木道路)
- (18) 一般国道 302 号 (伊勢湾岸道路)
- (19) 一般国道 468 号 (首都圏中央連絡自動車道) (茅ヶ崎市から海老名市門沢橋まで及び海老名市中新田からあきる野市まで (あきる野インターチェンジを含まない。))
- (20) 一般国道 475 号 (東海環状自動車道) (豊田市から関市まで)

- ・ 高速自動車国道中央自動車道富士吉田線
- ・ 高速自動車国道中央自動車道西宮線（大月市から東近江市まで（八日市インターチェンジを含む。））
- ・ 高速自動車国道中央自動車道長野線（岡谷市から安曇野市まで（豊科インターチェンジを含む。））
- ・ 高速自動車国道第一東海自動車道
- ・ 高速自動車国道東海北陸自動車道
- ・ 高速自動車国道第二東海自動車道横浜名古屋線
- ・ 高速自動車国道中部横断自動車道
- ・ 高速自動車国道北陸自動車道（富山県下新川郡朝日町から米原市まで（朝日インターチェンジを含む。））
- ・ 高速自動車国道近畿自動車道伊勢線
- ・ 高速自動車国道近畿自動車道名古屋関線
- ・ 高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線（愛知県海部郡飛島村から甲賀市まで（甲賀土山インターチェンジを含まない。））
- ・ 高速自動車国道近畿自動車道尾鷲勢和線
- ・ 高速自動車国道近畿自動車道敦賀線（小浜市から敦賀市まで（（仮称）小浜インターチェンジを含まない。））

別紙 - 3

A	高速自動車国道近畿自動車道名古屋関線（高針ジャンクションから名古屋西インターチェンジまで）
B	高速自動車国道中央自動車道富士吉田線（高井戸インターチェンジから八王子インターチェンジまで）

別紙 - 4

- ・ 高速自動車国道第一東海自動車道（東京インターチェンジから厚木インターチェンジまで）
- ・ 高速自動車国道第二東海自動車道横浜名古屋線（海老名南インターチェンジから厚木南インターチェンジまで）

A	一般国道 3 0 2 号 (伊勢湾岸道路)
	一般国道 4 7 5 号 (東海環状自動車道)
B	一般国道 4 6 8 号 (首都圏中央連絡自動車道) (海老名市中新田からあきる野市まで)
C	一般国道 4 6 8 号 (首都圏中央連絡自動車道) (茅ヶ崎市から海老名市門沢橋まで)
D	一般国道 1 号 (西湘バイパス)
	一般国道 1 3 8 号 (東富士五湖道路)
	一般国道 2 7 1 号 (小田原厚木道路)
	一般国道 1 6 号 (八王子バイパス)
	一般国道 1 3 9 号 (西富士道路)
	一般国道 1 5 8 号 (中部縦貫自動車道 (安房峠道路))
E	一般国道 1 号 (新湘南バイパス)

以 上